

平成 30 年 6 月 27 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 志太 勤一
(JASDAQ コード番号 4837)
問合せ先 取締役 経営企画本部長
山本 大介
(TEL. 03-5784-8909)

**「資本業務提携締結及び子会社の異動（持分譲渡）に関するお知らせ」（開示事項の経過）及び
「資本業務提携締結に伴う債権譲渡に関するお知らせ」（開示事項の経過）
並びに平成 31 年 3 月期業績予想及び配当予想に関するお知らせ**

当社は、以下の適時開示※でお知らせいたしましたとおり、株式会社 B&V（以下「BV 社」という）に対し、当社の連結子会社であったシダックス・コミュニティー株式会社（以下「SC 社」という）の持分 81%及び当社が保有する SC 社への債権並びに当社が保有する当社の持分法適用関連会社であったシダックストラベラーズコミュニティー株式会社（以下「STC 社」という）への債権を譲渡いたしました。本件による当社連結業績に与える損益につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

※既適時開示日付および表題

平成 30 年 5 月 30 日付	資本業務提携締結及び子会社の異動（持分譲渡）に関するお知らせ
平成 30 年 5 月 30 日付	資本業務提携締結に伴う債権譲渡に関するお知らせ
平成 30 年 6 月 7 日付	（開示事項の経過）「資本業務提携締結及び子会社の異動（持分譲渡）に関するお知らせ」及び「資本業務提携締結に伴う債権譲渡に関するお知らせ」

また、平成 30 年 5 月 17 日に公表いたしました「平成 30 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」において、平成 31 年 3 月期の業績予想及び配当予想を未定としておりましたが、本日、下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について（連結・個別）

上記適時開示※にてお知らせいたしましたとおり、BV 社に対し、SC 社の持分 81%及び当社が保有する SC 社への債権並びに当社が保有する STC 社への債権を譲渡したことに伴い、当社の平成 31 年 3 月期第 1 四半期の個別決算において 38 億円の特別損失が発生する見込みです。なお、当該譲渡による連結財務諸表に与える影響額は算定中です。

2. 業績予想について

平成31年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）	—	—	—	—	—
今回発表予想（B）	62,000	200	△130	△3,800	△97.49
増減額（B－A）	—	—	—	—	
増減率（%）	—	—	—	—	
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成30年3月期第2四半期）	72,240	△199	△1,694	397	10.20

平成31年3月期通期連結業績予想数値（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）	—	—	—	—	—
今回発表予想（B）	116,000	1,800	1,000	200	5.13
増減額（B－A）	—	—	—	—	
増減率（%）	—	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成30年3月期）	142,890	1,169	△1,387	△1,396	△35.84

業績予想の説明

平成31年3月期の第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、業績に影響を与える未確定な要素が多い為、業績予想を数値で示すことが困難な状況であることから未定としておりましたが、下記に述べさせていただく事業環境及び業績動向等に加え、上記適時開示*及び「1. 特別損失の計上について（連結・個別）」に記載のとおり、SC社の持分81%及び当社が保有するSC社への債権並びに当社が保有するSTC社への債権の譲渡が完了し、SC社・STC社の資産・負債についてその最終帰属先が決まったことや、SC社が当社の連結子会社でなくなったこと及びSTC社が持分法適用関連会社でなくなったことによる平成31年3月期の業績への影響が見込めるようになったことから業績予想を決定いたしました。

当社グループは「食」を中心とした水平垂直統合型グループ構造の推進により経営効率化を図り、「食」のフィールド拡大と車両運行管理から社会サービス事業など様々なサービスを組み合わせお客様に提供する「トータルアウトソーシングサービス」を一層推進し、総合サービス企業として持続的な企業価値の向上に努め、業務の受託拡大と営業体制の強化を図ってまいります。ここで、レストランカラオケ事業には継続的に関与するものの、SC社が当社の連結子会社でなくなったこと及びSTC社が持分法適用関連会社ではなくなったことで、当社グループ連結での事業ポートフォリオを転換し、今後、特に好調である「トータルアウトソーシングサービス事業」に経営資源を集中することが出来ることとなった事業環境及び直近の業績動向等を総合的に勘案した結果、平成31年3月期の業績への影響が見込めるようになりました。

なお、当該業績予想どおりに推移した場合、当連結会計年度末時点において、複数の金融機関との間で締結しておりますシンジケートローン契約に規定する財務制限条項の「平成31年3月期末における連結損益計算書に記載される営業損益を29億円以上にする」と抵触するおそれがありますが、このような事象又は状況を解消又は改善すべく、関係金融機関とは変更契約の締結について協議中であり、概ね合意を得ております。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

3. 配当予想について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想	—	—	—	—	—
今回発表予想	—	0.00	—	15.00	15.00
当期実績	—	—	—	—	
前期実績 (平成30年3月期)	—	0.00	—	15.00	15.00

配当予想の説明

平成31年3月期の配当予想につきましては、業績に影響を与える未確定な要素が多い為、業績予想の合理的な算定が困難であることから未定としておりましたが、平成31年3月期業績予想の決定及び長期的な株主の利益に資するため従来から維持してきた安定配当の観点を重視し、配当予想を決定いたしましたのでお知らせいたします。

以 上